

## ■もう師走 入学からすでに7ヶ月

「若者は年をとりやすいが、学問はなかなか成就できない。少しの時間も無駄にすべきではない。池の堤の春の草が夢を見ている間に、階段の前の梧(アオギリ)の葉に秋風が忍び寄る。」

若者よ、時間を大事にしていますか。秋風どころか、すでに冬、北風が吹いていますよ。相変わらず、スマホのゲームをせずにいられないようではまずいと思いませんか。

5月の連休で中学の復習をしようとした人、夏休みまでに苦手科目を克服しようとした人、夏休みで挽回しようとした人、模擬試験の結果を見て奮起しようとした人、前期の評定を見てまずいと思った人、秋になったらと思っていた人…、いつになったら本気で動き出すのですか。のんびりしていると、また春が来てしまいます。言い訳しても何のプラスにもなりません。

## 進研模試データ活用BOOKより

## ■苦手が固定化する可能性のある分野を自覚せよ

模試で成績が悪かった分野は、3年間ずっと**苦手なままで固定化してしまう**恐れがあります。模試の結果から苦手意識を感じている分野を自覚し、固定化する前に**克服する**ことが大切です。特に、全国平均で偏差値50に届いていない分野に注目し、得点が伸びなかった要因を分析してください。その際、得点できなかった分野は、7月の模試や定期考査でも得点できていないかなど、どの段階からつまづいているかを確認し、苦手の原因を見つけてください。

## ■冬休みに取り組む内容を確認せよ

家庭学習にまとまった時間を割ける冬休みは、苦手克服の大きなチャンスです。苦手分野を再確認し、克服するためにどのような学習に取り組むか検討しましょう。

★次の模擬試験は、1月14日(土)に実施します。また、1月29日(日)には希望者を募って駿台記述模試が予定されています。今の自分以上のものと戦わなければ、向上はありませんよ。

偶成  
少年老い易く 学成り難し  
一寸の光陰 軽んず可からず  
未だ覚めず 池塘春草の夢  
階前の梧葉 已に秋声

偶成：たまたまできた詩

なお作者に関しては、朱熹ではないとの説が有力

少年：若者

光陰：光と影 昼と夜 時間

池塘：池の堤

階前：きざはしの前「階」は堂に上る階段

梧葉：青桐の葉

## ■長文不慣れ 本・新聞よりSNS 国際学力調査結果

経済協力開発機構(OECD)が72か国・地域の15歳計約54万人を対象に2015年度に実施した「国際学習到達度調査(PISA)」の結果を公表しました。日本は「科学的応用力」が2位(前回は4位)、「数学的応用力」が5位(同7位)に順位を上げましたが、「読解力」は8位(同4位)に下がってしまいました。

文部科学省は「スマートフォンを使った短文のコミュニケーションが広がる一方、読書量や新聞を読む機会が減っている。一定量の文章に触れる機会の減少が影響している可能性がある」と分析しました。

また、PISAの意識調査では、「科学についての本を読むのが好き」と回答した生徒が参加国・地域中最低の34.9%でした。「科学についての知識を得ることは楽しい」もOECD平均より10ポイント以上低い54.7%で、依然として学習意欲や意識に課題がある結果になりました。

## ■平日学習時間1時間以下 6割以上

学習進路指導部の「Evergreen第7号」に、本校生徒の学習時間調査結果が載っていました。「平日学習時間が1時間以下という生徒が、とうとう6割を超えてしまいました。それ以前の3年間では同時期の調査で4割強ほどでした。学習内容が高度になっているのに、学習時間が減少という由々しき事態で、「ほとんどの生徒が授業の予習や復習をせずに過ごしている」のではないかと書かれていました。

★さて、あなたはどうか。長文読解力に自信がありますか。家庭学習時間を確実に確保していますか。第一希望に絶対合格するという気持ちを持って生活していますか。

## ■給付型奨学金2万～4万 文科省原案「公立・私立」「下宿」で差

「讀賣新聞」12月9日付朝刊

文部科学省は12月8日、**低所得者世帯の大学生らを対象とする給付型奨学金制度**の原案を決定した。私立や国公立などの違いに応じて月額2万～4万円を給付することが柱だ。自民、公明両党は大筋で了承しており、文科省は今後、財源について財務省と詰めの協議を経て、再来週には制度設計を終えたい考えだ。政府・与党は2017年の通常国会で法制化し、17年度中に一部だけでも給付を始めることを目指す。

給付額は、自宅から国公立大に通う場合は月額2万円、自宅から私大に通う場合と、親元を離れた下宿先から国公立大に通う場合は3万円を支給する。下宿から私大に通う場合は、最も経済的な負担が大きいとして、同4万円とした。

給付額に差をつけたのは、世帯間の不公平感をなくすためだ。独立行政法人・日本学生支援機構の2014年度調査によると、大学生(昼間部)の学費と生活費の年間平均額は、自宅から国立大に通う場合が年間109万円だったのに対し、下宿から私大に通う場合は2倍を超える239万円だった。私立と比べ、国公立は授業料の減免制度が充実していることも考慮した。

★多くの大学生が利用する日本学生支援機構の奨学金は貸与型です。借りた奨学金は、返還の義務が生じます。しかし、この制度は、給付型で返す必要はありません。ただし、住民税の非課税世帯の若者を対象としています。保護者の所得が低く、進学を断念せざる得ない者の進学を後押しする制度です。学費など進学費用については、保護者と話し合っておく必要がありますよ。

◆クリスマスから年末・年始、外出する日もあるでしょうが、毎日学習時間は確保しましょう。